

イチゴの病害虫の発生状況（4月上中旬）

うどんこ病

葉及び果実での発生ほ場割合は平年並の状況でした（図1、図2）。蔓延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を徹底してください。

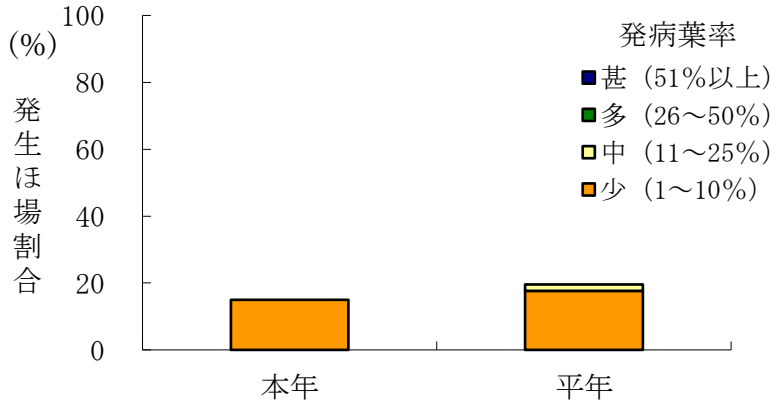


図1 うどんこ病（葉）の発生状況

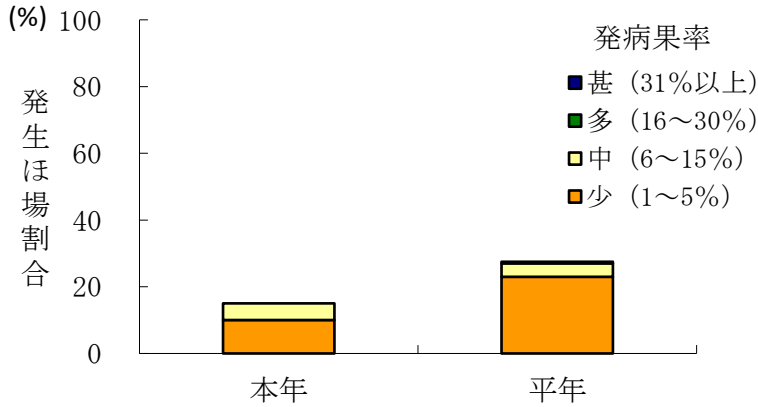


図2 うどんこ病（果実）の発生状況

灰色かび病

巡回調査において発生は確認されませんでした（図3）。本病害は過湿条件で発生が多くなりますので、換気に心掛けてください。また、薬剤防除だけでは十分な効果がありませんので、り病した果実や茎葉、果梗はほ場外に持ち出して処分してください。

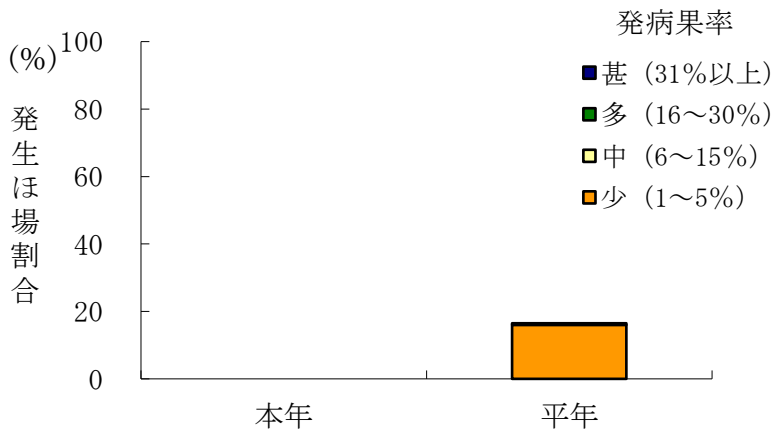


図3 灰色かび病の発生状況

アブラムシ類

発生ほ場割合は平年よりやや高い状況でした（図4）。気温の上昇に伴うハウスの開放により有翅虫が飛来します。寄生密度が高くなると、すす病による果実の汚れが生じるので、発生を確認したら防除を実施してください。

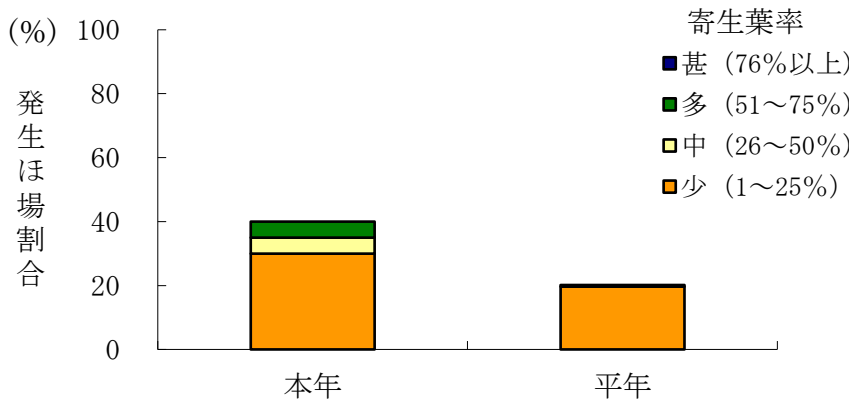


図4 アブラムシ類の発生状況

ハダニ類

発生ほ場割合は平年並でした（図5）。防除の際は、下葉やランナーの整理後、葉裏に十分薬液がかかるように散布してください。また、ナミハダニの薬剤感受性の検定を実施していますが、薬剤によっては感受性が低下している場合がある（表1）ので、薬剤散布の2～3日後に葉裏を観察し、効果が不十分な場合には異なる系統の薬剤を散布するなど適切に対応してください。また、ハダニ類防除に天敵（チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ）を放飼している場合には、放飼した天敵に影響が小さい薬剤を選択して防除を行ってください。

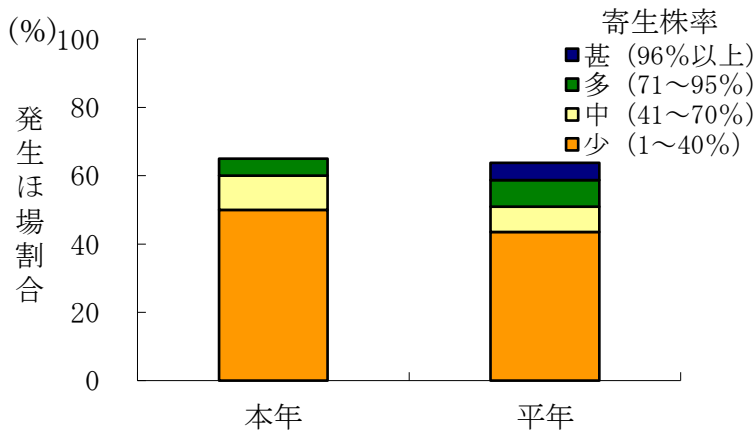


図5 ハダニ類の発生状況

表1 ナミハダニに対する殺ダニ剤の効果

供試薬剤	イチゴ 2001年 農試	キュウリ 2002年 農試	キュウリ 2003年 農試	キク 2004年 農試	イチゴ 2008年 防除所	イチゴ 2013年 防除所	イチゴ 2015年 防除所	イチゴ 2018年 防除所
アグリメック	—	—	—	—	—	—	—	◎
アーデント水和剤	△	△	△	△	—	△	—	—
アフーム乳剤	—	—	—	—	◎	—	—	—
カネマイトフロアブル	—	◎	◎	◎	◎	◎	○*	◎
コテツフロアブル	△	△	○	△	—	△	—	△
コロマイト水和剤	◎	◎	◎	◎	◎	△	△*	○
スターマイトフロアブル	—	—	—	—	—	—	△*	—
ダニサラバフロアブル	—	—	—	—	—	○	△*	△
ダブルフェースフロアブル	—	—	—	—	—	—	—	△
ニッソラン水和剤	△*	—	△*	—	—	—	—	—
パロックフロアブル	○*	—	○*	—	—	—	△*	—
ピラニカEW	△	△	△	△	—	△	—	—
マイトコーネフロアブル	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎*	◎

注1) ◎: 効果高い、○: 効果が劣る場合あり、△: 効果が劣ることが多い、—: 未検定

(◎: すべての個体群で死虫(卵)率90%以上、○: 死虫(卵)率90%以上の個体群が5割以上、△死虫(卵)率90%以上の個体群が5割未満)

注2) ※は、殺卵効果を検定。

コナジラミ類

発生ほ場割合は平年並でした（図6）。密度が高くなるとすす病発生の原因となるので、低密度時から防除を実施してください。また、ラノーテープを使用している場合でも、寄生密度が高いほ場では防除を実施してください。

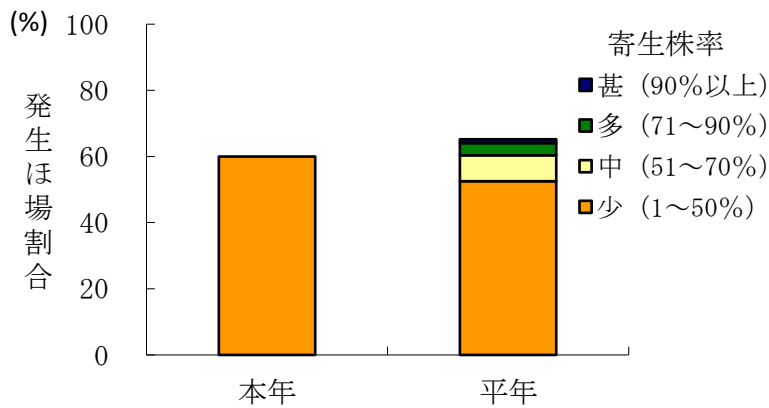


図6 コナジラミ類の発生状況

アザミウマ類

花での発生ほ場割合は年並でした（図7）。今後、気温の上昇とともに急増し、密度が高くなると被害果が発生しますので、発生状況を良く確認して、発生がみられる場合は防除を実施してください（写真1、2）。

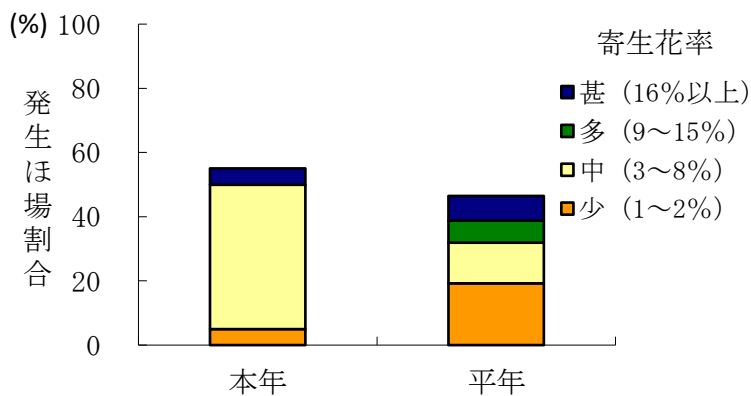


図7 アザミウマ類の発生状況



写真1 ミカンキイロアザミウマの寄生状況



写真2 アザミウマ類による被害果
(着色異常 オレンジ色に変色)

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp